

宮崎県歴史の道調査報告書

鶴 戸 街 道

1978

宮崎県教育委員会

**鶴戸神宮往還**

( 宮崎一内布一鶴戸一油津 )

**熊谷間道**

( 油津一熊谷一谷之口 )

**榎原神社往還**

( 谷之口一榎原 )

**目 次**

1. 鶴戸街道の特色 ..... 1
2. 鶴戸街道の歴史 ..... 1
3. 鶴戸街道 ..... 2
4. 街道沿いの文化財 ..... 4
5. 写真及び古地図 ..... 3-(1)

## 序

宮崎県はかつては交通不便の地とされていましたが、近年急速な近代化の波を受け、古来から人々や文物の交流の舞台となった道も年々姿を変えていきます。

その道のもつ歴史的背景、道の果たした役割、道の現状等を明らかにする「歴史の道」調査を、全国にさきがけ、昭和52年度に県北五街道を実施しました。昨年に引き続き、昭和53年度は県南四街道の調査を実施し、一昔前の街道や街道沿いの交通遺跡の残存状況の実態を明らかにいたしました。

本報告書は、街道地図・街道の特色・街道の歴史・街道の様子・街道沿いの文化財や遺跡の解説からなっています。

短期間になされた調査ですので不備な点もあるかと思いますが、本県交通史の研究資料として、又、歴史の道保存のための基礎資料として御活用いただければと思っております。

最後に、資料による事前調査、実地調査、報告書作成と、それぞれお忙しいなかお骨折りいただいた調査員の方々に厚くお礼申し上げます。

昭和54年3月

宮崎県教育委員会

教育長 四 本 茂

## 例　　言

いるが、間道あり脇道ありで複雑をきわめ  
るので、街道図を参照していただきたい。

### 1. 街道名

江戸時代にあっては、道路の規模により街道と往還を使い分けていたようであるが、現在往還は用いないのですべて街道とした。

また、志布志街道をのぞく他の街道は、厳密にいえば2ないし3往還に細区分される。

しかし、すべてをあげる必要もないで、距離も長く中心となるものを代表させた。

### 2. 街道の概要説明

街道の詳細な記述は、街道沿いの交通関係遺跡の解説に譲り、ここでは街道の持つ歴史的背景、街道の果たした役割、街道の現状等を概括的に記した。

### 3. 街道沿いの交通関係遺跡解説

(1) 個々の解説の前半に、遺跡及び遺跡周辺の状況、遺跡と遺跡間の状況を過去から現在にわたって述べ、後半に遺跡そのものの解説を付した。

従って個々の解説をとおして読めば、起点から終点迄街道の全容が把握できる。

(2) 街道沿いの主な集落には、戸数、集落間の距離又は起点からの距離を記したが日向地誌によった。地誌は明治8年の調査をもとにしている。

(3) 集落間の距離、起点からの距離で、何里何町と記してあるのは日向地誌によるもので、他は地図から割出した距離であるので正確は期しがたい。一応の目安としていただきたい。

(4) 交通関係遺跡の配列はほぼ道順に沿って

## 1 鶴戸街道の特色

宮崎市の中村町から七浦七峰を越え鶴戸に至る道、筑肥の今町から鳥居峰を越え鶴戸に至る道、平山から風川の浜道を通り同じく鳥居峰を越え鶴戸に至る道を、古くは鶴戸神宮往還と言った。

今回の調査では、これらの街道に榎原から油津までの街道を含め、鶴戸街道として調査の対象とした。

この街道は、言ってみれば鶴戸さん参りの道、榎原さん参りの道であるが、参勤交代の道、又、浦里と浦里との往来道でもあった。

鶴戸神宮は、鞍馬、箱根と並ぶ我が国三大権現の一つであり、榎原神社は鶴戸神宮の神臺を勧請し創建したもので、何れも筑肥藩主の庇護を受けた。

宮崎から鶴戸への道は、日向灘の海岸部を荒磯で通行困難な所は峠路をとり、入江で通行可能な所は浜道を歩いた。これを七度繰り返す、いわゆる七浦七峰を越して鶴戸に至る道である。峠路は急坂であるが、木の間ごとに日向灘や岬の景色を楽しみ、頂上の茶屋では甘酒をすすり、又、団子をはおぼるという苦しくとも楽しい旅であったにちがいない。ことに単衣の着物にしひき帯、白脚絆姿で髪型は高島田か丸まげのういういしい花嫁を馬に乗せ、これまた、黒股引に黒脚絆、草鞋ばき姿のりいしい花嫁が手綱をとって、馬の首にとりつけた直径一寸五分もある肥後鉢をシャンシャンと響かせながら行く新婚さんは楽しい旅であったろう。

県南では、「嫁を鶴戸詣りに連れて行けないような男には娘をやるな」と言われたぐらいである。このほほえましい風習も明治の中期には途絶えた。

榎原から鶴戸に至る街道も、宮崎から南下する街道に劣らず変化に富んだ道である。榎原から上方までは南郷川沿いの山際道、上方から油津までは山裾を行く道、広瀬川を舟で渡って約3km続く白砂青松の浜伝い道、そして、鳥居峰を越すと鶴戸である。

現在、浜伝いの道はほぼ現在の国道と重なり旧道の面影をとどめないが、峠路は茶屋跡、石垣道、道標としての石仏等を残し江戸時代の旅情を味わうことができる。

## 2 鶴戸街道の歴史

鶴戸山は崇神天皇(2~3世紀初)の頃の創建とされるが、恒武天皇の勅令により、僧光喜坊快久が寺院と僧堂を再興し、延暦元年(782)鶴戸山大権現吾平山仁王靈園寺の勅号を受けた。長禄3年(1459)後醍醐天皇の勅使が参拝している。

文明16年(1484)伊東祐國は軍を一手は清武、北郷から、もう一手は鶴戸、東郷からと二手に分けて筑肥に攻め入ったが、八千の軍勢が鶴戸路を埋めたという。天文年間に伊東義祐(三位入道)もこの街道に車を進め、鶴平峠と島帽子峠に砦を築いて筑肥攻略を果たした。

鶴戸山は又、修驗の道場として世に聞こえ、足利時代急流を創めた慈恩(相馬四郎義元)、江戸時代急流を創めた愛州移香が靈窟でされの創法をあみだした。

戦国時代は戦いのために車馬を進めた道、武芸者が修業のために行き交った道であった。『西の高野』としてお遍路さんの一行が、又鶴戸山参りのシャンシャン馬が行き交ったのは、世の中が安定した江戸期も後期になって

からであろう。

この間の道中記は、鷲肥攻略を果たした伊東義祐の鷲肥紀行、橋三喜の一宮巡詣記、伊能忠敬の測量日誌等がある。

榎原、鷲戸間は鷲戸街道はど記録がなく、街道の歴史解明はこれからである。

### 3 鷲戸街道

#### (1) 中村町から折生迫へ

中村町から大淀川と平行する道を東へ進むと、かって、「赤江城ヶ崎は擅木の町よ金がなければ通られぬ」と言われた城ヶ崎に出る。

城ヶ崎は、大淀川河口にある赤江港により繁盛した町である。昭和40年頃まで残っていた古い家並も今は見られない。

城ヶ崎の四辻を右折し南に進むと、街道右側に宝泉寺がある。ここには、江戸時代俳句をたしなんだ商人たちの俳人墓地がある。更に進むと、街道右側に恒久神社があり、ここから約600mでまた四辻に出る。ここから、国鉄日南線と国道200号線に挟まれた街道約1kmは、比較的旧道の面影を残し、酒屋や酢の製造元など、白壁に格子戸の家、土蔵が残る。

この通りがつづると、国道と合流するが、本郷南方まで現在の国道と重なるため、旧道の面影は全くない。

加護神社から旧道は山鹿道を行くが、かっては農家しかなかったこのあたりも、新興住宅が建ち並び、農村的なたたずまいは見られない。

江佐原の集落を出ると、清武川の河口に開かれた水田地帯に出る。江佐原は明治の初め49戸の集落であり、鷲戸神宮はここからお

およそ8里19町(約3.5km)の道のりであるが、当時の街道の道幅は、日向地誌によると、9尺(約2.7m)である。

水田の中を行った旧道は、現在畦道と化しているが、約1kmで鬼塚の渡しに至る。清武川を越すと野熊、そして、中島の集落であるが、途中に加江田神社がある。加江田川の天神渡しを渡り、川沿いの山鹿道を東進すると曾山寺である。曾山寺は、明治の初め37戸の集落であった。

曾山寺から折生迫までは国道と重なる。途中に青島があるが、参道入り口にはホテル、食堂、土産物店が林立し、かってのひなびた海岸風景はなくなっている。

#### (2) 折生迫から鷲戸へ

鷲戸街道最大の難所である七浦七峠は、折生迫から鷲戸まで続く。

日の御崎峠、内海峠、内海の浦、小内海の浦、鷲巣峠、鷲巣の浦、伊比井越、伊比井の浦、馬の峠、富士の浦、瀬平峠、小目井の浦、宮浦、鳥帽子峠、以上が七浦七峠である。

内海峠は上り下り約4.5kmであり、現在、杉の植林がなされ、峠路の真下を国鉄日南線の青島トンネルが通過している。内海港は古くからの港で、明治の初めには56艘もの船があった。内海と小内海間の約3.5kmは国道220号線と一致する。鷲巣の峠路は約2kmで峠路の小内海側東麓は別荘地として開発され、旧道の大半が消失しているが、下り道の鷲巣側は杉林、段々畑内に旧道が残っている。

又、鷲巣には関所があった。

伊比井越は約1.5kmで、鷲巣側は広葉樹林を行く雁み状の道で往時の姿をよくとどめている。伊比井健は一部みかん畑の中を行くが、農道として現在も利用されている。伊比井には宿屋があったと言う。

伊比井川の渡しを渡り、短いが急坂の馬の峠を越すと富士であるが、この間約2kmであり、富士川を渡ったあたりから鷺平峠登り口までは現在の国道と重なる。

鷺平峠の北側の富士側は比較的なだらかな登り坂だが、道としての機能を失った現在は樹林で出来たトンネル道と言った方がふさわしい。峠の南側は杉林で急な坂道となっている。峠の出口近くに、昔は茶屋が三軒あったと言うが、現在は近代的なドライブインである。

ここから小目井の砂浜道を通り、觀音岬の山手部分を越えると宮浦であるが、この間約4.5kmである。

宮浦には、玉依姫を祀る宮浦神社がある。宮浦からいよいよ最後の鳥帽子峠越えになる。この峠は、伊東氏と島津氏の古戦場でもある。峠を下ると吹毛井であり下り口に六地藏がある。

鶴戸神宮は、これより上りが438段、下りが377段の八丁坂を越え、鶴戸崎を北に行った所の岩窟内に鎮座する。

### (3) 鶴戸から駿肥及び油津へ

これから先は、日南、串間方面の者にとっては、鶴戸さん踏での帰路となり、佐土原、宮崎方面の者で更に櫛原まで足をのばそうという者にとっては、梗原さん踏での道となる。

八丁坂登り口の前を南西に進むと、山裾に八丁坂を独力で築いた坊薙尼の堂がある。

現在の国道は鶴戸から風田まで海岸沿いを通るが、旧道は鳥居峠を越えて駿肥、又は、風田に出る。

小吹毛井の集落から杉と雜木の混交林の中を行く道を登りつめると、鳥居峠の頂上に出る。ここには茶屋があり、茶屋からの下り坂には杉並木があった。今は茶屋跡のみが残る。

ナホトカ③  
下り道途中に観岩り名所があり、格好の休息場があった。ここから500m程下ると東弁分に出る道と風田に出る道との分岐点に出る。

東弁分に出るには進路を南西方向にとる。  
④ 尾根伝いの道は石畳が随所に残り、山仕事の人達が今も利用しているので保存状態は良い。

峠路を下ると神田の集落に出るが、途中神田溝に架かる鍵鏡橋を渡る。小吹井から峠を越し神田までの距離は約7.5kmである。

山際に形成された神田、乙東、甲東の各集落を通り抜け水田の中の道を更に進むと広渡川に出る。

ここには東渡しがあり、渡し船が1艘、茶屋もあったが、今は茶屋跡だけが残る。渡しを渡り再び水田の中の道を西へ進むと戸所の集落である。

戸所峠を越すと駿肥の今町で、ここは駿肥街道と鶴戸街道の接点であり、鶴戸街道の起點でもある。

一方油津に出るには、鳥居峠の観岩をしばらく下ったあたりから蔓ヶ迫に出る道をとる。急な坂道を下ると、水田に面した山際道である。風田川を渡ると、日向灘に面した約3kmの防風林、防砂林が続く。旧街道はこの松林に沿って南下するが、現国道の西側を行く。途中東郷古墳、神武天皇の駒つなぎ松等の史跡、伝説地が松林の中に所在する。

⑤ 松林、そして砂浜がつくると、広渡川の河口である。今は永久橋であるが、昔は渡し船で渡った。近くに奇岩、奇礁で知られる梅ヶ浜の名勝があり、旅人は必ずといってよいほど立ち寄った。現在国道は油津から大堂津まで海岸線を通るが、昔は切りたった崖が海まで迫っていたので街道は油津の町から平野、日後谷、隈谷と迂回する山手の道がとられた。

油津は、古くからの港町で堀川連河には眼

鐵橋が架かり、両岸には古い建物が立ち並んで江戸情緒をかもしだしている。

隅谷は古くからの集落で、街道から西へ約2kmのところに、南北朝時代の板碑や五輪塔群を残す歓樂寺跡がある。

鴨谷川を渡り山を越すと、細田川河口に形成された水田地帯が広がる。水田の中の道を南下すると、下津屋野の集落である。ここからは、南郷川に沿って滝ヶ平山南郷山際道を樓原めざして進む。下津屋野から下講まではほぼ県道と重なり、下講から櫻原までは、国道220号線と重なる。

津屋野、下講あたりは、戦国時代肝属氏が領したが、島津氏から伊東氏との仲を疑われ、伊東氏と一緒に交えて討死した肝属の将安楽卜紹介の居城跡や墓、古戰場などが街道沿いに史跡が多い。

終点櫻原は油津から2里28町（約10.9km）である。

櫻原は、櫻原さんで知られる櫻原神社がある。

## 4 街道沿いの文化財

### 宮崎市

#### ① 城ヶ崎の町並み

鶴戸街道の起点の中村町から城ヶ崎に至る道の前半である国鉄日豊線以西は、市街區であるため旧街道としての面影はない。

鉄道以東の通りは、道路拡張はなされたものの左側の通りは、商家、醤油醸造元など古い家並みを残す。

#### ② 宝泉寺 ◎

街道は鉄道以東の二つ目の四辻（この当りが城ヶ崎の最も賑わった所）を右折して進む

が、町並みは四辻から八重川橋あたりまで続いた。

宝泉寺は、この通りの右側にある。本願寺末で宝曆8年（1758）駿肥淨念寺末から独立した。本尊は阿弥陀如来である。

#### ③ 城ヶ崎俳人墓地 ◎（市指定）

城ヶ崎は赤江港によって繁盛した漁町である。江戸時代から明治初期にかけて俳句を中心とした町民文化が栄えた。

宝泉寺の南側にこれら俳人の墓碑23基、及び、正和3年（1314）、嘉曆3年（1328）の路がある板碑がある。

#### ④ 恒久神社

八重川に架かる橋を渡り南に進むと三叉路に出る。この角は、鹿児島県からの分県運動に尽力した川越道の旧宅など古い民家が多く、現在は近代住宅が建ち並んでいる。

恒久神社は寛治4年（1090）に創建されており、三叉路の角にある。

#### ⑤ 赤江酢本舗 ◎

恒久神社から更に進むと国鉄日南線と交差する。旧道は、鉄道と国道220号線の間を南東に行くが、この間約700mは国道と重複しないため旧道の面影をよく残す。

通りに面した酢の醸造元でもある赤江酢本舗は、どっしりした店構えである。

#### ⑥ 加護神社

国道と合流するあたりから、加護神社までの間の約2.4kmは、現在の国道と重複し国道の両側は住宅が急速に増えつつある。

加護神社は応神天皇と伊東祐邑を祀る。社伝によれば「文明18年（1486）の創建

天文五年（1536）奏請により加護八幡の勅号を賜えり」とある。明治維新後、加護神社と改名した。

#### ⑦ 鬼塚の渡し

加護神社より山裾道を南々東に進み、清町岩切からの道を横切り、清武川河口に開けた水田を南西に進むと鬼塚の渡しであるが、街道はどの跡道なのか今は確認できない。

鬼塚渡しは徒歩したが、冬の間だけは単板の板橋が架かった。

#### ⑧ 加江田神社

鬼塚の渡しから高台にある熊野の集落、車坂の集落を通り坂を下って水田の中の道を行くと今度は天神の渡しである。

加江田神社は熊野の集落にあり、天照大神を主神とする。もと加江田村中村に鎮座したが、寛文2年（1662）大震災にあい、社殿焼没のため寛政11年（1799）に当地に造営された。

#### ⑨ 天神渡し

天神渡しは加江田川沿い対岸の中島部落から約300m上流にあった。今はコンクリート造りの天神橋が架かるが、旧藩時代は単板橋を架して冬期の渡しとし、その他の時期は徒歩したが、増水の時に備えて舟を一隻置いていた。

#### ⑩ 青島

加江田川沿い山麓の集落である中原、片の田や曾山寺を通り、右折して今度は南岸に平行した街道を南東に進むと折生迫である。

加江田川河口に架かる鶴来橋から折生迫までは、現在の国道と重複し特に観光地青島を

控えた商店街通りは、土産物店、食堂、ホテル等が林立し、昔のひなびた面影はない。

青島の隆起海床と奇形波蝕痕は国指定、島内の亜熱帯植物群落は国指定の特別天然記念物になっている。又、青島神社は、彦火火出見尊、豊玉姫命、塩土の翁を祭神とし参詣者が多い。

#### ⑪ 内海峠

折生迫から須田木に向う。須田木が内海峠の登り口である。現在、峠路は杉山の中を行く道である。頂上近くにあったという茶屋の跡は草木が繁茂し探し出せない。峠を下り今は林道として利用している平坦な道を進むと内海川に架かる橋に出る。

現在、峠路の下を国鉄日南線の青島トンネル（1.4km）が通っている。折生迫、内海間は約4.5kmである。

#### ⑫ 内海港

内海港は三面を山に囲まれ、東北より戸崎の岩礁が突出し天然の防波堤をなしている。漁港として木材の積出し港として利用された。

#### ⑬ 内海のアコウ

内海から小内海までは海岸線沿いの街道であるが国道と重なる。又、国鉄日南線も平行して走る。この間集落はなく昔ながらの風景が行く手に展開する。

内海のアコウは、野島神社の境内にあり巨樹として有名である。アコウはクワ科の常緑高木であり、九州、四国、アジアの熱帯、亜熱帯海岸に自生する。

野島神社は白鬚大明神とも言い塩土神と猿彦神を祭神とする。

## 日南市

### ⑩ 鶯巣の関所跡

小内海の集落を通り川を渡ると墓地がある。ここからが鶯巣峠の上り口である。小内海側の峠路は別荘地として開発が進み、旧道は800m程破壊され赤土の地肌をあらわにしている。鶯巣側は杉林を行く道だが、途中鶯巣の関所の番士達が切り開いたのであろうか段々畑の石垣が苦むして残る。峠路の出口から600m程、畑地の中の平坦道を行くと、鶯巣の関所跡に出る。

鶯巣の関所は、鰐戸往還の要所として貢肥藩士20世帯が駐在した。関所は浜道に面していたが、現在、関所跡は国道拡張で消失している。関所は街道を通じて同地が唯一の所であるが、慶応3年(1867年)に閉鎖した。

### ⑪ 伊比井越

鶯巣の関所跡を通るとすぐ伊比井越である。峠路の鶯巣側は、シイ、カシなどの広葉樹林の中を行く構造の崖道で伊比井側はみかん畑を行く。現在農道として利用されているので街道の保存状況は良い。峠路を下ると、海岸線を通り現在の国道と合流する。国道由南線のガードをくぐると伊比井神社で、鶯巣、伊比井間は約1.5kmの道のりである。

### ⑫ 伊比井の経塚

伊比井越の峠路で鶯巣側の中程、旧道から4km位上った所に経塚がある。ここには、五輪塔や板碑が10基余りあり、中に貞和平間に(南朝年号1345~)建立のものがある。

塚には、イチイガシなど大樹があり、土地の人々は宝物が埋蔵されている所、地震の時は経塚山に逃げこむものと語りついできた。

### ⑬ 馬の峠

伊比井には昔宿屋があった。伊比井の集落を出ると伊比井川に出会い、渡しは現在の橋の位置より約300m上流にある。馬の峠は短いが坂はけわしい。峠を下ると潮小学校の裏手に出る。ここから富士の集落までは浜沿いの道であった。伊比井、富士間は約2kmである。

### ⑭ 潤平峠

富士から、潤平峠登り口までは現在の国道と重なる。潤平の峠路の富士側は、樹林の中のトンネルを行くような道である。反対の小目井側は杉林を行く急な坂である。峠路の出口近くに茶屋が3軒あった。現在の国道は、観音崎を回りこんで行く海岸道であるが、旧道は観音崎の山を越える山路であり宮浦の集落に出る。

富士、宮浦間は約4.5kmである。

### ⑮ 潤平の城跡

潤平城跡は潤平岬の山頂にある。三面は海に囲まれ、西南部が岡崎に接している。地勢は陥しく海邊からよじ登る事は出来なかった。元弘の初め矢野下野守義之が日向に下り七浦を領した時築いた砦である。その後、伊東義祐が貢肥攻めの拠点とし、上別府常陸守が居城した。

### ⑯ 七人斬りの供養碑

潤平峠の下り口、小目井側から言えば登り口の海岸近くに、先の茶屋、中の茶屋、本茶屋と3軒あった。ここから約150m位先に、七人斬りと称する所がある。ここは、街道を行く七人の盗賊が追いはぎに斬られた所で、茶屋の主人が建てたと言う供養碑が立つ。

旧暦2月15日16日の鶴戸山のお接待日は、参詣人でごったがえし、茶屋は、わらじや宿泊者の夜具を宮浦まで大急ぎで仕入れに行つたと言う。

## ② 宮浦神社

宮浦神社は宮浦に鎮座し、玉依姫命を祀る。社伝には、「桓武天皇の延暦年間再興」とある。永祿3年(1560)伊東義祐が社殿を造営した。「里人に問はずばいざや白波の玉依姫の宮の舎とは」 義祐の貳肥紀行の中の詠歌である。古来から安産の神として尊崇され、いまもつづいている。

これより西約1kmの所に玉依姫の御陵と伝える古墳がある。

## ② 鳥帽子峠跡

宮浦神社前から旧街道を拡張した林道を行くと峠路の上り口となる。鳥帽子峠宮浦側は杉山の中を行く道であるか、または、急な坂道である。吹毛井湖は果樹園として開かれ、みかん畑の中を行く道で峠路を下り南東に進むと、鶴戸トンネルを出た国道と合流し吹毛井の集落まで国道と重なる。峠路を下る途中に岩窟の下を通る。

この岩は、天文10年(1541)伊東義祐が都部から貳肥を攻めるため瀬平の巣(伊比井)に陣した時、貳肥の島津忠広が鳥帽子岩を築いて伊東の南進を防いだものである。城中には兵士が300余りいたが天文12年3月瀬平の伊東軍が鳥帽子城を攻落した。

## ③ 鳥帽子峠の地蔵尊 ④

鳥帽子峠の下り口、吹毛井から言えば登り口に六地蔵がある。鶴戸山を背後から見守る形で旧道に向している。宝暦14年(1546)

の年号と別当隆珍の名がある。

隆珍は鶴戸山第46世の別当で、鶴戸山明王院に閑居、天明4年(1784)89才で遷化。鶴戸山住職は26年間である。

これら地蔵尊は参詣人の道しるべになつたことであろう。

## ④ 鶴戸参道、八丁坂 ⑤

鶴戸神宮へは現国道を横断し東へ進むと一の局居に出る。ここから海寄りに行くと八丁坂登り口に行き当る。途中、新道で寸断されているが、すぐ登り坂の石段で両脇には大杉が並ぶ。

八丁坂は、坊爾尼が单身で築いた石段である。遠方から参詣する善男善女のため尼僧が人々のあざけりをよそに1人で磯石を頭上にかついで登りせっせと築いた。鶴戸山の麓から靈廟までの八丁の山を拓いた。

## ⑤ 馬道 ⑥

鶴戸山参道の八丁坂下り石段の途中から社務所前に出る馬道がある。これは奉納米を積んだシャンシャン馬が通る道で横木を埋め込んだ山道である。今はほとんど使われず、馬道と呼ばれてひっそりとしている。

## ⑥ 鶴戸神宮と靈廟 ⑦

八丁坂も海寄りの参道近くになると、両側に茶店、土産物店、宿屋等が軒を並べ参詣者を呼びこんだ。現在は八丁坂を登り下りして鶴戸神宮に向うものはほとんどなく、海岸沿いの新道を車で行く。

鶴戸神宮鎮座の岩窟は鶴戸崎北端にあり、うがやまきあえずのことと鶴茅葺不合尊御御室の地と言われる。洞窟は東西20m、南北30mの広さがある。神殿は崇仲天皇の朝の創建とされるが、桓武天

皇の延暦年中に再興された。

島津、伊東の尊崇深く、社の別当寺の仁王護国寺は光喜坊快久の開山である。初め天台宗で中葉以後真言宗となる。寺坊18を有し開山から56代で幕末となる。今も縁結びの神社として参詣人が多い。

#### ② 鶴戸崎 ③

鶴戸神宮の本殿、別当寺、僧坊が繋かれた鶴戸崎は岸上に700m位突出しており、浸食によって生じた奇岩群はみごとである。なお、岬の南岸に広がる千疊敷奇岩は県指定天然記念物になっている。

#### ③ 坊薙尼堂 ④

鶴戸神宮に参詣せず鳥帽子崎からの道を東西に進むと山際に八丁坂の石段を攀いた坊薙の尼堂がある。中には木彫彩色の高さ1m余りの坊薙尼像が祀られている。

「延享四年丁卯祀(1748)」

「奉造立大領主 隆珍」「冬十月吉辰」  
坊薙尼は豪家の酒屋に生れた一人娘で、鶴戸山に心酔しこれが豪貴を説いたため石段開基に狂気の如く取り組んだ。

#### ④ 鳥居崎

現在、鶴戸から小吹毛井経由、風田までの道は海岸沿いの国道であるが、旧道は御手洗川を渡り集落が途切れたあたりから山を越して小吹毛井の集落に出る。小吹毛井からは山際道を西に進むとしたいに登り坂となり、杉と雜木の混交林を行く道となる。

峠の頂上は、杉が若木のため眺望がよい。昔あったという茶屋の跡は現在竹林になっている。下り坂は急な坂で杉山の中を行く尾根道で、麓近くになると道の両側に石垣が見ら

れるようになる。峠を下り水田を前に控えた山際道を進むと神田の石橋に出る。

鶴戸、東弁分間は約7.5kmである。

#### ⑤ 水の尾砦(貝殻城)

鳥居崎の北西約600mに水の尾砦がある。鶴戸街道は水堀の頃までは水の尾に通じ、鳥居崎を越す道はまだ開けていなかったと見られる。天文12年(1543)破竹の勢いにあつた伊東義祐が鳥帽子城を攻め取って、さらに同14年駿河への足がかりとして水の尾に砦を築いて兵を置いた。砦の四面には壁を設けたという。

#### ⑥ 砕岩 ④

鳥居崎の頂上から400m程下ったところに現状の巨岩が斜めに横たわり、くぼみ部分が路面と水平になっている。この岩は砕岩といわれ旅人のよい休息場所であった。ここから油津の七ツ八重などの名勝が眼下に望める。

#### ⑦ 石垣道

峠岩を過ぎると、道普請の時出てきた山石を片側に寄せて積んだのであらうか、石垣を散見するようになる。

#### ⑧ 神田石橋 ④

鳥居崎を下り終え200m程水田を前に控えた山際道を行くと神田溝(灌漑用)に架かる眼鏡橋に出る。日向地誌には、神田土橋と記されており長さ10m、幅1.3mである。

東弁分には石橋が多くみられたが、ほとんどが壊され、ほぼ原形を保っている石橋はこれ位である。

#### ⑨ 神田溝

街道は神田の集落の東側を通り、鬼ヶ城山の山麓にある乙東、甲東の集落を通る。甲東の集落から水田の中の道を500m程西進すると、広渡川の中流点、東の渡しである。

神田溝は流れを鳥居峠の西麓に発し、鬼ヶ城山と高砂城山の間に開けた水田を流れ、広渡川に合流する。

#### ㊲ 鬼ヶ城跡

鬼ヶ城は東の渡し手前の集落甲東からおおよそ700m北東にある鬼ヶ城山に築かれた砦である。要害堅固な砦で、天文年間から永禄に至る伊東、島津の攻防地となった。七浦から地続きの要衝で両軍ともここに固執したが、ついに永禄6年(1563)に伊東氏の根拠となった。伊東義祐が「肥前守」と多く敵を殺せばや鬼ヶ城とは人の言らん」と詠んでいる。

#### ㊳ シャンシャン馬の鉢 ㊴

松永は甲東の北西約1.4kmにある集落で、ここは旧幕領であるが、この集落の農家にシャンシャン馬の鞍と鉢が保存されている。

シャンシャン馬とは新婚夫婦の鶴戸参りや、鶴戸山への奉納米運搬のため用いる馬を言い、首に直径2cm、高さ3cmの鉢を30個ほどとりつけた鉢鎖を下げた。

#### ㊵ 車渡し

東渡し(現在永久橋)を渡り、水田の中の道を約500m西へ進むと廻所の集落で、廻所峠を越すと武肥の今司に出る。ここは武肥城大手門を起点とする武肥街道との合流点で、鶴戸からの街道はここを終点とする。

東弁分と武肥の間は約4.5kmである。

東の渡しは、現在の橋より約100m下手

にあり、明治の初め頃は渡し船が一統置かれていた。茶屋跡は現在の橋の近くにあったが、道路工事のため消失した。

#### ㊶ 東郷古墳

鶴戸から油津への道は鳥居峠の観音をしばらく下ったあたりから蔓ヶ迫に出る道に入る。鳥居峠から蔓ヶ迫に出るまではかなり急坂である。蔓ヶ迫から山県道を南に進み川を渡ると風田に出る。

風田川から広渡川に至る約3kmは風田の浜といい砂浜と松林が延々と続く。旧道は国道の西側をほぼ平行して走る。

東郷古墳は、街道左手の松林の中に立派な石碑があり、長さ15mの前方後円墳で、土地の人は狐塚と呼んでいる。

#### ㊷ 平山の駒つなぎ松跡

東郷古墳から約1km、国道沿いの旧街道を行くと、防風林の隙に「駒つなぎ松」の石碑がある。

神武天皇は幼少の頃平山の地に住み、折々鶴戸山に竜神から授かった竜石という駒馬にまたがって出かけたが、その馬をつないだといわれるのがこの駒つなぎ松である。

#### ㊹ 駒宮(平山神社)

駒つなぎ松から約100mで駒宮(平山神社)である。

駒宮は大化元年(645)の創建で神武天皇を祀る。明治の初め平山神社と改称した。

#### ㊻ 梅ヶ浜渡し ㊽

平山神社から約1kmほど砂道を行くと、広渡川の河口に出る。

今は永久橋が架かるが、当時は渡し船で渡

った。なお、この河口は9月から2月頃まで  
は砂でふさがり、その上を人馬が往来したよ  
うである。

#### ④ 石堰堤

梅ヶ兵廻しの北西約300mの所に油津堀  
川運河の水門がある。この水門をつくるため  
築いたのが石堰堤で、高さ約3m長さ約6.7  
mの石垣である。

#### ⑤ 梅ヶ浜

梅ヶ浜の廻しを渡ると山坂道となり、坂を  
下ると堀川運河に架かる眼鏡橋に出る。

梅ヶ浜は廻しの南東にあり、竜穴(洞窟)、  
竜躍石(奇岩)、稻荷山、雀八重(奇礁)等  
の名所が多く、この街道を行く者は足をのば  
した。

又、ここには梅花があり、軍用の梅干用と  
して藩主に梅の実を毎年献納した。

#### ⑥ 乙姫橋

堀川運河に架かる乙姫橋(眼鏡橋)を渡り、  
山際道を北西にとり、中平野で左折して約  
1.3km西へ進め、日後谷から山坂道を約2.5  
kmほど南へ進むと隈谷である。

堀川運河は、広瀬川上流で伐り出された杉  
材を油津堀に直接引き入れるために、天和3年  
(1683)から貞享3年(1686)にかけて  
掘りきされた運河である。

#### ⑦ 歌樂寺跡

隈谷からは隈谷川を渡り、山坂道を下ると  
細田川下流域に開ける水田地帯に出る。水田  
の中の道を約1.5km進むと堀川平山の北東山  
麓、下津屋野に至る。

歌樂寺跡は隈谷の西側にあり、五輪塔百数

十基、板碑6基を山中に残す。

嘉慶3年(1328)元徳2年(1330)正慶  
2年(1333)銘のものがあるが、ほとんどは  
無銘である。

#### 南郷町 <南那河都>

##### ⑧ 安楽下総介の墓

下津屋野からは高平山南麓山裾と南郷川との  
間に形成された道を、この街道の終点櫻原神社  
まで上って行くことになる。

街道沿いにある津屋野神社の手前約500m  
の久保田の田の中に安楽下総介の墓がある。

肝属氏の将、安楽下総介は、島津氏の誤解を  
とくため伊東氏とはかって偽戦を行ったが、伊  
東側の全将兵にこのことが徹底しておらず実戦  
となり戦死したものである。

#### ⑨ 蒼雲ヶ城跡

谷の口は隈谷と櫻原のはば中間点にあり、櫻  
原へは、1里20町(約5.9km)である。谷の  
口と臨元の境をなす山嶺を南西にのぞむこと  
ができるが、ここには安楽下総守(葉丸朝雲)が  
築いた蒼雲ヶ城跡がある。

#### ⑩ 櫻原神社

櫻原神社は万治元年(1658) 妖肥藩主伊  
東祐久が、鶴戸神宮の神靈を勧請して創建した。  
建物として、本殿、山門、鐘楼、靈廟等がある。  
境内には、鶴戸様の神気がのり移った神女とし  
て内田ます子を祀る桜井神社がある。内田ます  
子は鶴戸の坊薦尼僧と同時代(寛政)の人とい  
われる。

なお、櫻原神社は鶴戸神宮と共に西国著名的  
の神社として知られ、古来より櫻原参りとして參  
詣する者が多い。ことに毎年3月16日例祭は  
非常な賑わいを見せる。



②宝泉寺  
阿弥陀如来を本尊とする宝泉寺の鐘楼。



⑤赤江酢本舗  
昔の面影を残すどっしりした店構え



③城ヶ崎俳人墓地  
俳句を中心とした町人文化をさえた  
俳人の墓碑



⑦鬼塚の渡し  
冬の間だけ板橋がかかったこの渡しは、  
宮ヶ田瀬と木崎の間にあったという。



⑩内海岬  
内海岬から見る、七浦七岬である。



⑬内海のアコウ  
国指定天然記念物のアコウ。



⑭馬の峠  
伊比井の山から馬の峠を望む。



⑮伊比井越  
溝状の産道を行く伊比井  
峠路。



⑯瀬平峠  
杉林の中を行く峠の南側。



⑰烏帽子峠の地蔵尊  
参詣人の道しるべになった地蔵尊。



◎鶴戸参道・八丁坂  
両脇に大杉の並ぶ八丁坂  
の石段。



◎鶴戸神宮と靈窟  
縁結びの神社として今でも参詣人が多  
い。



◎坊闌尼堂  
尼堂の中に祀られている坊闌尼像。



◎馬道  
奉納米を積んだシャンシ  
ヤン馬が通った。



◎鶴戸崎  
岬の突端に鶴戸の靈窟が鎮座する。千  
疊敷奇岩は県指定天然記念物である。



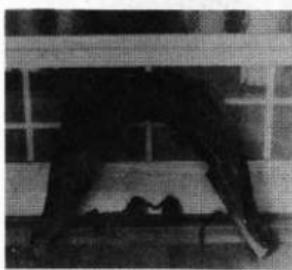
③ 観 岩

旅人の休息場所であったが、岩の水平面から樹木が生え観形のくぼみは見えない。



④ 神田石橋

日向地誌には神田土橋と記されている眼鏡橋。



⑤ シャンシャン馬の鉛

直径 2 cm、高さ 3 cm の鉛が 30 個ほどついていた。



⑥ 梅ヶ浜渡

9月～2月頃までは歩いて渡った広渡川の河口。



⑦ 乙姫橋

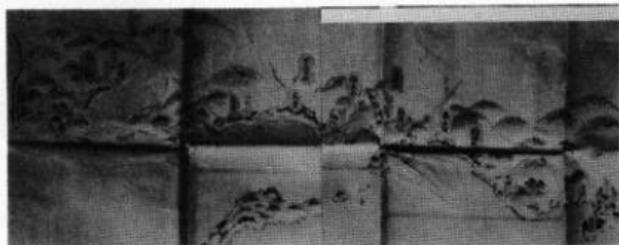
堀川運河の眼鏡橋で乙姫橋という。



④ 鉢塚寺跡石塔群  
五輪の塔や板碑が百数十基残る。ほとんど無銘である。



⑤ 桜原神社  
鶴戸神宮と共に西国著名の神社として知られている桜原神社の山門。



海辺村々の絵図

○監修 石川 恒太郎 岐文化財保護審議会委員

○調査員

指道名	氏名	役職
米良街道	青山 幹雄	県文化財保護指導委員
	安藤 徳英	妻北小学校教諭
城肥街道	久枝 敏	県文化財保護指導委員
	川崎 満也	北郷小学校教諭
輪戸街道	細田 隆介	県文化財保護指導委員
	堀内 和雄	袖津小学校教諭
志布志街道	前田 博仁	大平小学校教諭
	井手 義徳	有明小学校教諭

「歴史の道」調査報告書

昭和54年3月31日

編集 宮崎県教育委員会

発行 文化課

宮崎市橘通東1丁目9番10号

印刷所 酒匂印刷



# 飫肥

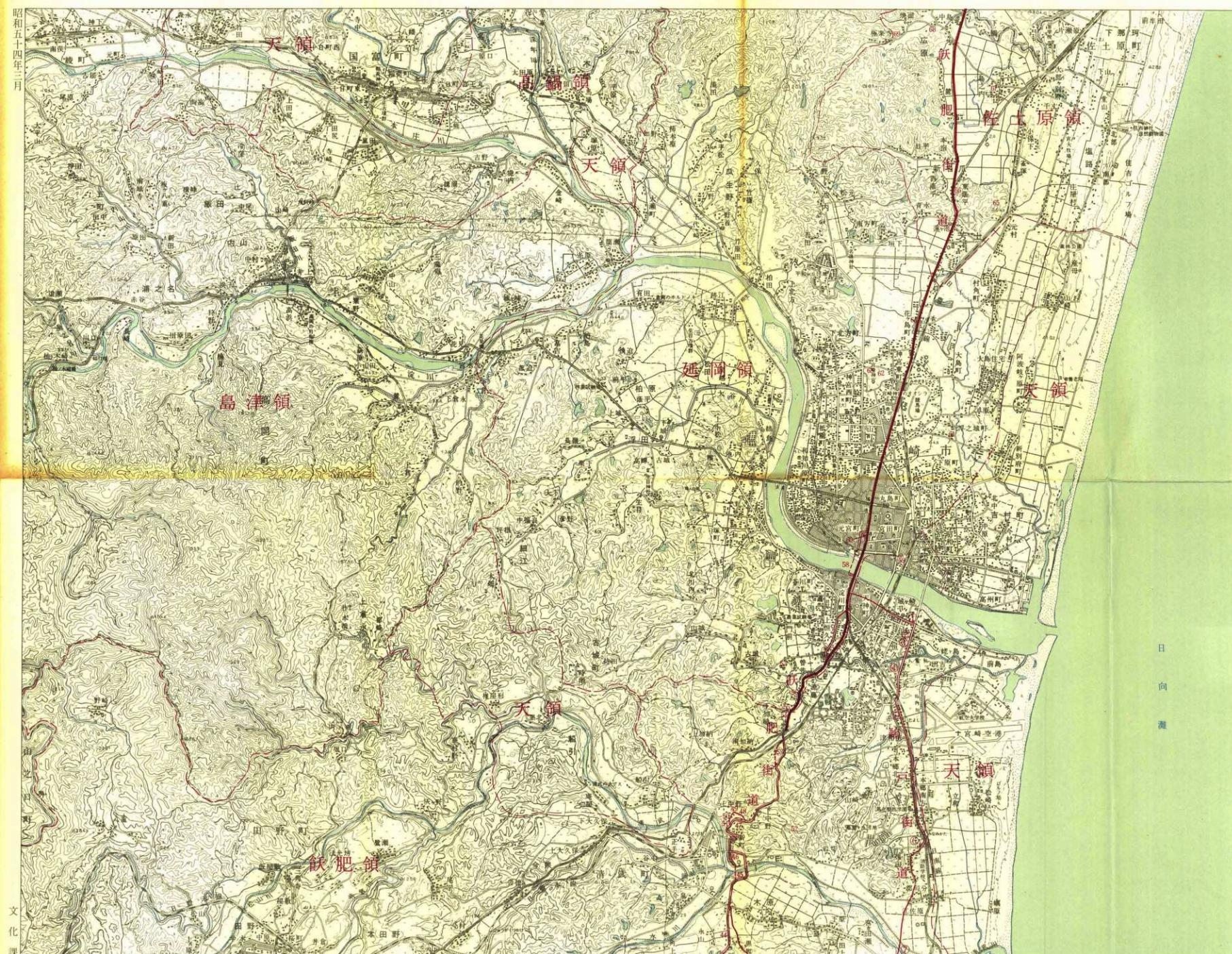
昭和五十四年三月  
文化課



この地図は、建設省土地理院版の承認を得て刊行施行の5万分の1地形図を、複製したものである。(承認書明) 昭54 九種第118号。

原図: 国土総研51TB4-21 (昭54) 77-464 (宮崎アドバイザリーセンター)

# 宮崎



## 宮崎県歴史の道

鰐肥街道	鶴戸街道
① 黒坂の五輪塔	① 城ヶ崎の町並み
⑫ 上使橋渡し	② 宝泉寺
⑭ 新町の町並み	③ 城ヶ崎俳人墓地
⑮ 中野神社	④ 恒久神社
⑯ 中野の地頭跡跡	⑤ 赤江本舗
⑯ 伊東氏累世偽墓	⑥ 加護神社
⑯ 安井息軒旧宅	⑦ 鬼塚の渡し
⑯ 平部崎南生家	
⑯ 中野の馬術訓練所跡	
⑯ 清武古墳	
⑯ オンソジの井泉	
⑯ 加納神社	
⑯ 源藤板橋	
⑯ 曾井城跡	
⑯ 大淀川の船渡し	
⑯ 瀬頭水神	
⑯ 小戸神社	
⑯ 網掛觀音	
⑯ 宮崎神宮	
⑯ 宮崎県総合博物館	
⑯ 花ヶ島の水徳神	
⑯ 進ヶ池横穴群	
⑯ 新名爪の六地藏	
⑯ 住吉古墳	
⑯ 広原の六地藏	
⑯ 極楽寺の仏像	

## 凡例

国	道
県	道
その他の道	道
不明部分	道
領界	道

## 記号

□	市役所	■ 病院
△	市立幼稚園	■ 神社
○	市立小学校	■ 墓
◎	市立中学校	■ 高校
●	官公署(支所)	■ 駅
▲	官公署(支所)	■ 記念念
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署(支所)	
●	官公署(支所)	
▲	官公署(支所)	
◆	官公署(支所)	
■	官公署(支所)	
△	官公署(支所)	
○	官公署	

# 日向青島

昭和五十四年三月



## 宮崎県歴史の道

### 飼肥街道

- ① 立野番所跡
- ② 鶴之原神社
- ③ 花立のお駕籠立ての場
- ④ 元仮屋の板碑
- ⑤ 元仮屋の桜並木路
- ⑥ 関所の石仏
- ⑦ 山坂屋の関所跡
- ⑧ 加江田神社
- ⑨ 天神渡し
- ⑩ 青島
- ⑪ 内海町
- ⑫ 内海港
- ⑬ 内海のアコウ
- ⑭ 築築の関所跡
- ⑮ 元比井越
- ⑯ 伊比井の軽塚
- ⑰ 鶴之原の道標
- ⑲ 潮嶽神社
- ⑳ 宿野の五輪塔と六地蔵塚
- ㉑ 王塙古墳
- ㉒ 朝倉茶屋
- ㉓ 山坂屋トンネル
- ㉔ 汗道
- ㉕ 椿崎の馬頭観音
- ㉖ 九平の地蔵菩薩
- ㉗ 九平の道標
- ㉘ 双石山
- ㉙ 勢田峠
- ㉚ 勢田寺跡
- ㉛ 大堤の池塘修築碑

### 鶴戸街道

- ㉕ 加江田神社
- ㉖ 天神渡し
- ㉗ 青島
- ㉘ 内海町
- ㉙ 内海港
- ㉚ 内海のアコウ
- ㉛ 築築の関所跡
- ㉜ 元比井越
- ㉝ 伊比井の軽塚
- ㉞ 鶴之原の道標
- ㉟ 潮嶽神社
- ㉟ 宿野の五輪塔と六地蔵塚
- ㉟ 王塙古墳
- ㉟ 朝倉茶屋
- ㉟ 山坂屋トンネル
- ㉟ 汗道
- ㉟ 椿崎の馬頭観音
- ㉟ 九平の地蔵菩薩
- ㉟ 九平の道標
- ㉟ 双石山
- ㉟ 勢田峠
- ㉟ 勢田寺跡
- ㉟ 大堤の池塘修築碑

### 記号

1:50,000	市役所・病院
1:50,000	郵便局・投函口
1:50,000	電気・水道
1:50,000	橋
1:50,000	洞口
1:50,000	河川
1:50,000	港
1:50,000	道路
1:50,000	橋
1:50,000	隧道
1:50,000	測量点
1:50,000	井戸
1:50,000	山
1:50,000	谷
1:50,000	海岸
1:50,000	森林
1:50,000	開拓地
1:50,000	耕作地
1:50,000	未開拓地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田
1:50,000	草地
1:50,000	林地
1:50,000	竹林
1:50,000	耕地
1:50,000	旱地
1:50,000	灌漑地
1:50,000	水田
1:50,000	旱田